

# 丸善とタイプライター

安岡孝一

丸善が、ウエリントン・タイプライターNo.2の輸入販売を開始したのは、一九〇〇年（明治三十三年）のことだった。ボストン在住のウエリントン・パーカー・キダーという発明家が、一八九二年に発明したウエリントン・タイプライターを、チャールズ・キャロル・コルビー率いるウイリアムズ・マニユファクチャリング社が改良したのが、ウエリントン・タイプライターNo.2である。『丸善百年史』下巻八三七ページで、このウエリントンを何故第二号と名付けたかと云えば、ウエリントンとはかの有名な英国の大英雄の名前であり、遠慮して第一号とつけなかったからだと云う。英国人らしいユーモアである。

と紹介しているが、これは間違い。ウエリントンという名はキダーのファースト・ネームだし、キダーはメイン州ノーリッジウォック生まれのアメリカ人だし、コルビーもバーモント州ダービー生まれのアメリカ人（ただし当時はモントリオール在住）だし、そもそも最初にウエリントン・タイプライター（図1上）があつて、それを改良したのがウエリントン・タイプライターNo.2（図1下）である。

ウエリントン・タイプライターNo.2の特徴は、スラスト・

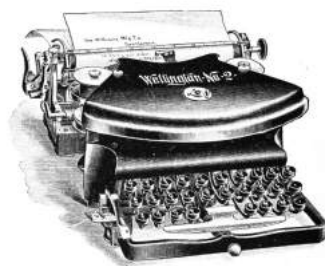


図1 ウエリントン・タイプライターと同No.2

アクションと呼ばれる、当時のタイプライターとしても珍しい印字機構にある。二八個のキーは二八本の活字棒にそれぞれ繋がっており、キーを押すと、対応する活字棒がプラテンに向かってまっすぐに飛び出す。プラテンの前面には紙が置かれており、そのさらに前にはインクリボンがあつて、まっすぐに飛び出した活字棒は紙の前面に印字をおこなう。これが、スラスト・アクションの基本動作である。活字棒の先に



図2 ローヤル・タイプライターNo.10 とコロナ3

は、それぞれ活字が三つずつ埋め込まれていて、シフト機構（ブラテンが持ち上がる）により八四種類の文字が印字可能である。ただ、複雑な印字機構のわりに、ウエリントン・タイプライターNo.2は華奢な作りで、頻繁に修理やメンテナンスを必要とした。

その後も丸善は、何種類かのタイプライターを輸入販売していたが、一九一四年（大正三年）にローヤル・タイプライター社の日本総代理店（朝鮮・満洲を含む）を獲得し、同社のタイプライターの輸入販売を大々的に開始した（二八頁参照）。主力製品のローヤル・タイプライターNo.10は、同社が前年に発売したもので、質実剛健を絵に描いたような四二キ

ーのフロントストライク式タイプライターである。金文字のROYALがキーボード奥とカット紙ガイドの二ヶ所に入っており、円弧状に配置された四二本のアームが特徴だ（図2上）。各キーを押すと、対応するアームが立ち上がって、ブラテンに置かれた紙の前面に印字がおこなわれる。アームの先には、それぞれ活字が二つずつ埋め込まれていて、シフト機構（全アームが下へ沈む）により八四種類の文字が印字可能である。

さらに丸善は、翌年、コロナ3（図2下）の販売を開始している。コロナ3は、一九一二年にスタンダード・フォールディング・タイプライター社が発売したフロントストライク式タイプライターで、セール・フレージャー社が日本での輸入代理店だったが、販売を丸善に委託したものである。タイプライター本体を小さく折りたたむのが特徴で、本体の重さが八ポンド、キャリケースが二ポンドと、旅先へも携帯可能なポータブル・タイプライターだった。二八本のアームの先には、それぞれ活字が三つずつ埋め込まれていて、シフト機構（ブラテンが持ち上がる）により八四種類の文字が印字可能である。

これら丸善が販売してきたタイプライターは、いずれも欧文タイプライターだった。一方、一九二三年（大正一二年）に仮名文字協会の山下芳太郎が、アンダーウッド・タイプライター社のバーナム・クルース・ステイックネーに横書きのカナ・タイプライターを発注し、ドッドウエル商会が輸入販売

を開始した。これを追いかけて丸善も、ローヤル・タイプライター社にカナ・タイプライターを作らせ、さらに一九二九年（昭和四年）にはカナ・ラテン・タイプライターを試作させている。

このカナ・ラテン・タイプライターは、ローヤル・タイプライター No.10 を四六キーに改造した特注品で、大文字アルファベット二六種と数字八種に加え、カタカナ四六種・濁点・半濁点・記号一〇種が印字可能だった（図3）。数字の0と1は、大文字のOとIで代用する。カタカナはシフト側に配置（オを除く）されており、濁点もシフト側にあるので、カタカナを打つ場合は、通常「トメ」（シフトロック）キーを使う。オ・半濁点・長音符（ハイフン）・句読点を打つ際や、数字・アルファベット・その他の記号を打つ際は「トメ」を外す。濁点と半濁点は一文字分進んでしまうので、見映えを良くしたい場合は、直後に「モドシ」（バックスペース）キーで戻す。ただし、小文字のアルファベットも、小書きのカナも、印字できない。このカナ・ラテン・タイプライターは、東京帝国大学の緒方知三郎の求めに応じて作られたものだったが、丸善は、これを受注生産という販売形態にしたようである。

一九七五年（昭和五〇年）に丸善は、自社ブランドのタイプライターを発売した。七五年に渡るタイプライター輸入販売に一応の区切りを付け、マルゼン・ポータブルタイプライターの販売へと舵を切ったのである。ただ、マルゼン・ポ

LUNGFENTUBERKULOSE A HEILBAR デアル。シム  
KLINISCH ノ BEOBACHTUNG 加フ 持ル デアル。BEGIN-  
NENDE PHTHISE ノ SICHERE ZEICHEN A 存ト、TU-  
BERKELBAZILLEN モ NACHWEISEN シル 事ト 然ガ、  
モ 二 週間 GESUND トナリ、SIE DAUERND ニ GESUND ニ  
BLEIBEN シ イル 事ト 示ス。マ 然ル AUSHEILUNG  
ガ 然ラズ 存ト 示ス、ANDERE KRANKHEITEN 予  
シ 存ト ノ SEKTION ニ 示ス、然シ TUBERKULOSE HERDE  
ノ MARBE ヲ LUNGENSPIITZE ニ 見ル、マ 然ル  
BRONCHIALDRÜSE ノ VERKREIDETE RESTE ヲ 見ルガ  
HÄUFIG デアルコト 知ラ 事ト 示ス。

{ MFHRING: LEHRBUCH DER INNEREN KRANK-  
HEITEN. ノウチ MÜLLER ノ 著ルコト 示ス。}

図3 カナ・ラテン・タイプライターの印字見本

ダブルタイプライター・モデル200は、シルバー精工のシルバー・リード720に瓜二つである。ローヤル202ポータブル・タイプライターにも、瓜二つである。プラスP W 72にも、瓜二つである。これらは全て、シルバー精工が製造していた。当時の広告（二八頁参照）によれば、丸善の伝統と技術が熱く息づいていたらしいのだが、さて、いったいどこで息づいていたのだろうか。

（やすおか・こういち 京都大学人文科学研究所教授）

# 広告クロニクル

小社はその草創期から書籍だけでなくインキ・菌磨・石鹼  
 などの自社製品や、いろいろな舶来品を販売していた。その  
 うちのいくつかは今も継続しているが、多くは取り扱いを終  
 了している。ここでは新聞紙上や小誌誌上に掲載されたさま  
 ざまな広告の中から、タイプライター、万年筆、インキ、文具、  
 化粧品、洋品、催事を紹介する。なお、社屋の焼失等で資料も  
 十分でなく取り上げられなかった商品も多い。掲載品は小誌編  
 集室がピックアップしたことをお断りする。

「學鏡」編集室

丸善の伝統と技術が熱く思っています

## マルゼンポータブル タイプライター

MODEL-100.....¥22,000  
 MODEL-200.....¥24,500  
 MODEL-300(電動).....¥50,000  
 MODEL-500(電動).....¥64,000

- 軽快なキータッチと鮮明な印字
- いつでもどこでも使える手回し
- 充実した機能と使い易さ
- オフ式用にも使えるハイカムシステム(電動)
- 現代人にマッチするスマートなデザイン

■新発売記念セール 2月末日まで

期間中、マルゼン・ポータブルタイプライターを1台お買い上げことにもれなくジグソーパズル(百四回型)を進呈


●お基めは最寄りの取扱店へどうぞ。

丸善本店製販部

昭和50(1975)年(p.12参照)

# CORONA

THE PERSONAL WRITING MACHINE  
STANDARD MACHINE



オフアイスムに發行に  
 家庭に到る處にタイ  
 グライチャンダの傑力  
 と發揮する輕快な  
 コロナ!

英文、英文、英文、英文、  
Y 160.00

大正4(1915)年



大正3(1914)年 ローヤル・タイプライターNo.5・No.7・No.10 を売り出し中の丸善大阪支店ショーウインドー(p.11参照)

## ローヤルポータブル

大型マシンの機能を完全に具備して英以上小形に併ふ種々の  
 原料を併有する理想的ポータブル・タイプライターは唯  
 ローヤルあるのみローヤルポータブル新製されて

タイプライターの實用能力は、並を進め、  
 其の使用の簡便は一層擴大されたこととも  
 批評があるローヤルポータブル

の携帯は文化人の最要件  
 (廣島1大正11年11月) 要領編纂文百三十三頁



目三三編本日京東  
 社會式株善丸  
 名寄門大  
 京野戸東  
 丸井田福野三三三神一京東

昭和2(1927)年